

地域で必要な医療を受けることのできる体制づくりを進め、いつまでも健やかに、生き生きと暮らすことのできるまちの実現を目指します

配置計画

- ▶ 東部に「東棟」、南西部に「西棟」、それらをつなぐ「連絡棟」、敷地北部に「立体駐車場」、北西部に「職員宿舎・保育所棟」を配置します。
- ▶ 主たる用途として、東棟に『健康管理施設』、西棟に『基幹病院』を配置します。



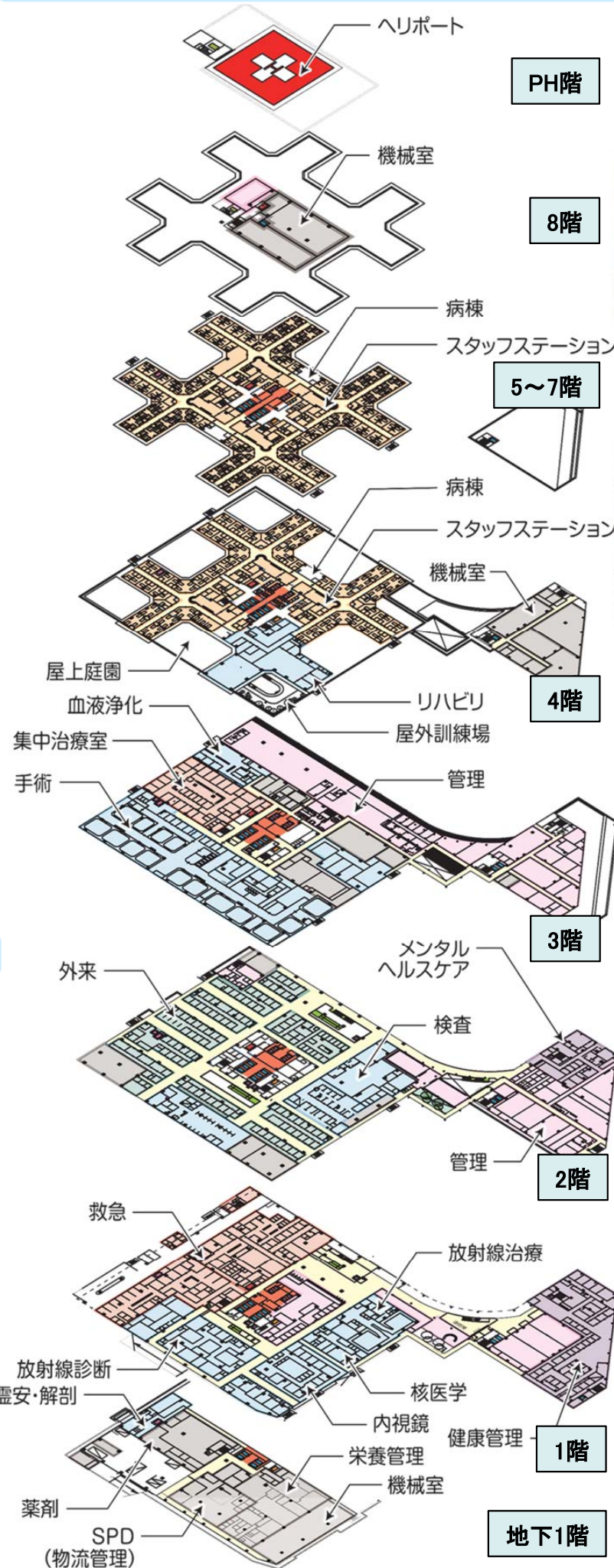
環境配慮計画

- ▶ 建築物における省エネ性能向上の取り組みとして、高効率機器の採用やエネルギー管理システムを用いた機器運転の最適化を図ります。
- ▶ ガスコージェネレーションを用いた電気と熱の効率等を活用し、電力使用量・購入量を低減します。
- ▶ ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)について、BELS認証によるZEB Readyを取得しました。



※ BELS評価書(左)の交付により、「一次エネルギー消費量50%削減」の評価結果を受けました

平面計画



4床室 イメージ



連絡棟 イメージ



エントランスホール イメージ

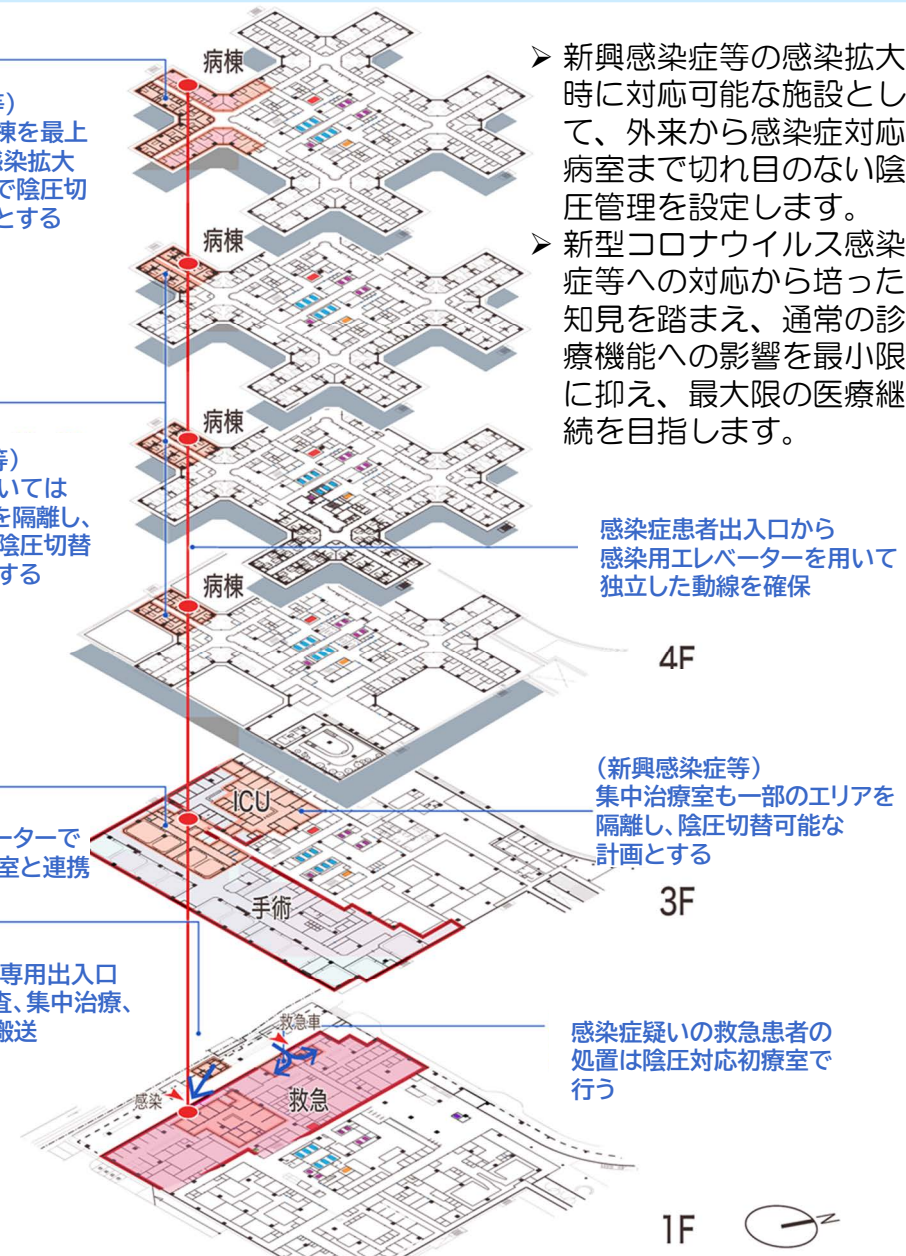
感染症対応計画

7F
(新興感染症等)
感染症対応病棟を最上階に設置し、感染拡大時に病棟全体で陰圧切替可能な計画とする

4,5,6F
(一般感染症等)
各階病棟については一部のエリアを隔離し、病室について陰圧切替可能な計画とする

3F
感染用エレベーターで感染対応手術室と連携

1F
感染症患者は専用出入口から救急、検査、集中治療、病棟、手術へ搬送



- ▶ 新興感染症等の感染拡大時に対応可能な施設として、外来から感染症対応病室まで切れ目のない陰圧管理を設定します。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症等への対応から培った知見を踏まえ、通常の診療機能への影響を最小限に抑え、最大限の医療継続を目指します。

感染症患者出入口から感染用エレベーターを用いて独立した動線を確認

(新興感染症等) 集中治療室も一部のエリアを隔離し、陰圧切替可能な計画とする

感染症疑いの救急患者の処置は陰圧対応初療室で行う

災害時業務継続計画 (BCP)

- ▶ 大規模災害時の拠点となる病院として、「東日本大震災」などの想定を上回る巨大地震への安全性を確保するため、基礎免震構造を採用します。
- ▶ 耐震性受水槽や自家発電機を用い、停電や断水発生時に病院の機能を維持するための電力や水を確保します。
- ▶ 大規模災害時においても、市民の皆さまに必要な医療を継続して提供できるよう、災害発生時における活動スペースを確保するなど、迅速な対応を可能とする病院とします。

